

第 10 回全学実行委員会議事要旨(抄)

文責:阿部潤

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称:

委員長(全学実行委員長)

副委員長(全学副実行委員長)

局長(全学局長)

会計(全学会計)

榆(榆陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

工(工学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

獣医(獣医学祭代表)

歯(歯学祭代表)

医(医学展代表)

文(文系祭代表)

理(理学祭代表)

その他の略称:

各祭(北大祭を構成する上記の各種学祭)

委員会(委員会という場合、組織としての全学実行委員会を指す)

実委(実委という場合、会議としての全学実行委員会を指す)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

1,諸連絡

- ・歯学祭の中止が決定した。これは企画の募集をかけたところ、応募がそれほど集まらなかったことによる。これに伴い、歯学祭は前記の全学実委にはこれ以降参加しない。
- ・ガスのキャンセル料について、まだ具体的な数値については確認が取れていない。確認が取れ次第共有する。
- ・北大祭が完全オンライン開催となる場合の決定時期について、9月20日に決定した場合とそれ以降に決定した場合の2つが考えられる。前者については北大祭事務局としてオンライン開催についての準備は滞り無く行われる。後者については実務的な障害が出る。具体的にはキャン

セル料の発生や事務局としての準備が間に合わないことである。最大限の努力はするが、企画・構想していたものが満足にできなくなる可能性がある。対面開催がだめであるというわけではないが、後者よりも前者のほうがより良いオンラインでの北大祭ができる。

文)いつまでだったら事務局は十分にオンライン開催でも対応が可能であるのか。

局長)9月20日をすぎると100%の準備ができなくなるというわけではなく、段階的に何かを諦めざるを得ない状況になる。しかしデッドラインは9月20日という認識で間違いない。

文)9月20日以降に緊急事態宣言の発令などでオンライン開催に切り替える場合、実委を開いて決定するのか、それとも緊急事態宣言発令時に北大祭をオンラインに切り替えるなどといったものを予め策定するのか。

委員長)役員同士間で議論しておらず、正式に決定されているわけではないが、委員長としては実委を開いて決議を取りたい。

・事務との連絡について。11月6日は文系棟、理学部、農学部、クラーク会館周辺については屋外企画が大きな制限を受ける可能性がある。集客を伴う企画をすべて中止していただく可能性がある。事務から通達があったが、ほぼすべての企画が集客を伴うので、前回の教養棟のときと同じように屋外企画のみの制限にとどめてほしい旨の交渉を行っている。現在事務の返信待ちである。また、どのエリアまで制限がかかるのか(大野池までなのか、中央食堂までなのか)についても現在確認中である。

・事務局のコロナ対策委員会で検討していたコロナ対策案、事務局衛生担当と検討した食品提供制限原案を事務に提出した。食品提供制限原案に関しては、衛生担当から制限案が決定事項ではなくあくまでも検討事項である点を明記してある。

獣医)食品提供制限案について、完全テイクアウト制を導入すると北大構内周辺(18・13・8条門など)に人が集まって大学内にイートインスペースを設けるよりも密になる恐れがあるが、その辺はどうか考えているか。

委員長)役員の中でも意見が割れている。出ている意見としては、そこまで行くとモラルの問題になり、事務は北大構内の飲食をやめてほしいと言っている。北大の外に関しては我々が感知するところではないというものがある。一方で宿泊先や家で食べるようお願いするべきとする意見もある。衛生の担当者としては、食品を手渡す時や掲示で注意を促す必要はあるとしている。

獣医)もし掲示を出した場合、それで北大の外で人が集まっているのを見た場合、どうすればよいか。強制力がないように思える。北大周辺で人が集まっていると、それは北大の外であれ北大祭のせいだとなりかねない。北大に責任が来る可能性がある。テイクアウト制にしたところで責任は軽減されないのではないか。

委員長)食事スペースの中だけで食べるようにしたほうがリスクは低減できると考えるか。

獣医)そちらのほうが、管理が行き届くため有効ではないかと考える

委員長)その場合どの程度の人員を割けるかが問題になってくる。

会計) 食品提供の如何に関わらず対面開催にした場合、札幌駅前待ち合わせをするなど北大周辺に人が集まるということは起こり得る。北大祭をやる以上は集まっても仕方がないというスタンスでやるべきではないかと考える。責任という観点であれば、はじめから対面開催をしないというのが責任ではないか。そこまで考え始めては仕方がないが…

委員長) 議論すること自体には価値がある

獣医) テイクアウト制にすると、私達が制御できない範囲の密が増えてしまう。

文) すべての食事スペース(何箇所あるかは把握していないが)に人がついて、飲食を食事スペース以外でしないように管理をするための人員が北大祭事務局スタッフ及び当日スタッフでまかなえるか。

局長) メインストリート周辺だけであればほぼ大丈夫であるが、恵迪寮の端など…

工) メインストリート及び正門までの道、銀杏並木、獣医学祭までの道のみを答えてもらえれば十分であり、恵迪寮の端などの細かいところを考慮する必要はない。

局長) 模擬店が出ている周辺であれば、模擬店の数などに左右されるため 100%カバーできるわけではないが、大部分をカバーできていると考えている。詳細は分かり次第共有する。

委員長) 補足だが例年最大の模擬店数をもつ榆陵祭は、例年の屋外団体数が 200 であるところを、食事スペース確保などの観点から 100 に絞っている。

会計) 以前食事スペースについてセパレーションを入れることを条件に食品提供を許可することを打診したがうまく行かなかった。すでに一回否定されているため、内部でどうにかなるかを考えてもしょうがないのではないかと。北大祭の外でどれくらいの制限ができるのかというのがもとの質問で、そこに割ける人員がないというのが答えである。

工) そもそも北大の外には施設管理権が及ばないということを忘れてはいないだろうか。よって外の制限についてはお願いベースでしかできない。

会計) 我々ができる最善策はお願いをする以上のことはない。

委員長) 外に人員を配置するというのは…

局長) マンパワー的にも権利的にも厳しい

工) 当該敷地を所管する警察に確認が必要である。声掛けぐらいであればとやかく言われることはないだろう。

会計) 獣医学祭が言われていたように、北大祭のせいであると見られてしまう事は覚悟した上での話であると思っていた。

工) 食品提供の話がこんがらがっている理由は、事務が中で食べるのを認めないという今年 3 月の話がベースになると考える。事務はどこを見ているのかというと、これは自分の推測の域を出ないが、北大の敷地の中でクラスターを起こしたくないと考えれば筋は通る。だがこちらが考えているのは北大祭全体として考えている。そのためこちらと事務で価値観の違いが起きているためこちらでどうこう言おうとこのまま行くとすり合わせにならない。このすり合わせから行わなければならない。そのためここでいくら議論しても前提が違うため議論は平行線のままである。

委員長) 8 月 2 日に食品提供についての決議を行うという話であったが、事務の方にもそれまでに

できるだけ早く回答してほしいということは連絡した。

工)佐藤さんがゼロベースから考えるということをおっしゃっていたので、価値観の共有あたりからしていったほうが良いと考える。ここに当局の人を呼びオブザーバーとして意見を求めることは規約上可能である。そういうことも検討したらもっと話は進み、より建設的な議論になると考える。

委員長)オブザーバーの形式を取るのであれば、8月2日の決議の日程を変更することになる。それについては役員の方で相談する。

工)実委まで行かなくても以前は意見交換会を各祭のメンバー含め行っていた。食品提供が生命線である各祭(個人的には獣医学祭)と直接話さないといけない。平行線のまま議論が進むと認めないで終わってしまう。

委員長)8月2日に食品提供に関する最終決議をするということであるが、一週間後ろにずらす可能性がある。今日中に決定させる。

文)9日に伸びる場合は、間に大学職員の方との意見交換会や9日の会に事務の方が参加されるということか

委員長)日程調整を…

工)今日中は無理である。2・3日置く必要がある。月末に点検があるためそのときに話せばよいのではないか。

委員長)3日以内に回答する。もし9日にある場合、どうしても外せない用事がある場合は連絡してほしい。

獣医)9日に延びる場合、8月2日に実委はあるか

委員長)おそらくなくなる。

2,要求項目についての決議

(省略)

3,今後の予定

・8月2日の決議に関しては3日以内に共有する。もし一週間延びる関係で参加できない場合は連絡していただきたい。

・8月16日以降はほぼ毎週、細かい諸連絡がある。

4,最後に(会計から)

(省略)

以上